

## 第645回

# 九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2022年7月度 ——

◇ 開催日

2022年7月19日(火)

◇ 議題

<ディスカッション>

「動画配信時代 地上波テレビに望むこと」

(第91回系列番組審議会委員代表者会議 議題)

◇ その他

九州朝日放送株式会社

## 第645回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2022年7月19日(火)午後3時25分～4時50分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社7階A会議室

### 3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 7名

委員長	赤木由美
副委員長	石橋和幸
委員	田川真司
委員	上野恵梨奈
委員	石井靖子
委員	藤村まこと
委員	丸石伸一

欠席委員数 1名 (レポート提出)

委員	中山裕二
----	------

### 放送事業者側出席者名

代表取締役社長	和氣靖
執行役員 総合編成局長	木附ゆかり
執行役員 報道情報局長	柴田高宏
番組審議会事務局長兼視聴者・広報室長	園田哲也
番組審議会事務局 (視聴者・広報室)	松永俊郎

#### 4. 議題

(1) ディスカッション「動画配信時代 地上波テレビに望むこと」

※第91回系列番組審議会委員代表者会議 議題

(2) 7月・8月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告

(3) 6月 視聴者・聴取者応答状況の報告

(4) その他

#### 5. 議事の概要

委員の意見（概要）

委員からは、

- テレビには「見なければならない情報を届ける使命」がある。視聴率至上主義で「稼がないからやめてしまえ」では、誰が政治や経済、社会を報じるのか。お金も人も設備もかかり時には危険も伴う「報道」はテレビ局の重要な役割であり使命だ。
- 人々が広く知っておくべき普遍的な価値を伝えることがテレビの役割だ。自分の部屋で趣向に合ったネット動画を見るのもいいが、家族で同じコンテンツ（番組）を見て善悪の形や平和の形や幸せの形を共有する時間を持つことも重要だと思う。
- テレビとネットには公共性・公平性がもたらす信頼度に大きな違いがある。ネットにはフェイクニュースやフィルターバブルによる世論操作の危険性があるが、テレビには正しい情報を公正・公平で迅速に伝える点で優位性を発揮する必要がある。
- テレビが信頼性の高いメディアとして評価され続けるには、特に報道番組において、制作側の論理だけでなく、視聴者目線の分析や深掘りでネットとの差別化を図るべきだ。
- ロシアによるウクライナ侵攻ではあからさまな報道統制が行われ、偏った情報が意図的に流れている。精巧なフェイクニュースが事実のように伝えられている。こうした真偽不明のコンテンツが大量に飛び交う時代だからこそ、独立した報道機関が公正な立場で取材して確認できた事実を伝えることがますます重要になっている。
- 緊急事態や自然災害の発生時の報道はテレビの1丁目1番地で、今後も充実させていく必要がある。正しく分かりやすい情報を早く届けることがテレビの役割で、ネットより高い信頼を置かれている。
- ローカル局のテレビ番組をオンタイムで全国に配信する仕組みは有効ではないか。テレビ版の「radiko」のような仕組みがあってもよい。課金制でもコンテンツによっては選ばれるのではないか。
- ローカル局には地域に密着した番組を制作する役割がある。災害時のきめ細かな情報発信や地域の人、モノにフォーカスした番組は、これまで以上に地域自治体との連携を強めて、より独自性の高い番組づくりを進めて欲しい。
- KBCの「ふるさとWish」は地域の人も参加できるし、地域の魅力を再発見できるという意味でも素晴らしい。地域とコミュニケーションを図りながら協働で番組づくりを行うチャレンジングな番組制作を続けて欲しい。

- 今春から「TVer」でテレビ番組を同時配信で見られるようになり選択肢は広がったが、スマホ等で視聴できるようになっただけでは視聴者の増加にはつながらない。重要なのは内容であり、子どもが喜び親も見せたいと思う番組かなどの検証も必要だ。
- 過去に放送したグルメ情報などを地図上にインプットして、いつでも視聴できるようにすれば放送エリア外からも重宝されるのではないか。新たな企画にも挑戦して欲しい。
- スポンサーに依存した民間放送の収益構造を考えると放送局のジレンマが垣間見れる。本当の意味での中立性や客観性をどう保つのが非常に大切だ。
- 7月の参院選の報道ではネットで話題の政党についてテレビや新聞があまり紹介しないことに違和感を抱いた。一方で、若い世代が情報源をネットに依存している傾向は否めず、テレビなどのマスメディアに若者のネット依存を抑制する役割を果たして欲しい。  
などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、担当者からは、

- ネットを活用した動画配信は抗いようのない潮流だと認識している。テレビには視聴者の生活スタイルにマッチした利便性または知的好奇心を満たす情報に信頼性が加わるベストバランスが求められている。情報に十分な解説を加えて客観性を提供することも重要だ。
- 放送局には「守るべきもの」と「挑戦すべきもの」がある。「守るべきもの」はこれまで築いてきた地域に根差した取材力や番組制作力。一方、ウェブも含めた新たな取り組みにも積極的に取り組む必要がある。この春に開始した「どこでもアサデス。」はその一つ。
- KBCが送り出す放送が公共空間を形づくる社会のインフラとして機能しているのかどうかという視点を常に重視している。地元でのプレゼンスを十分に果たし、地域の公共インフラを作り上げていくために、KBCは「地域と共にある」ことを目標に掲げている。
- コロナ禍で改めて人と人とのコミュニケーションや家族の会話の重要性が見直されており、テレビが提供する子どもの健全な育成につながる優良なコンテンツをぜひ見てもらいたいと思っている。放送に従事する我々は「今後の日本の在り方にさえ影響を持つ」との自負と責任感でメディアを守っていかなくてはならない。
- 先が見えない不安定な時代に何が正しいのか分からない面もあるが、まずはトライしてみるという風潮が社内で浸透してきている。歴史ある福岡の放送局として地元根差し、地域に貢献すべく全社的に「ふるさとwish」を始めた。地域を盛り立て課題の解決につながる情報提供を今後も進めたい。
- 7月の参院選報道において選択肢の提示が不十分だったことは反省点。テレビが担う「見なければならぬ情報を届ける使命」という観点で振り返った時に、有権者に誰に投票しようか、どの政党に投票しようか、という選択肢を十分に提示できなかった。朝日新聞社が実施したポートマッチングのような取り組みも今後は模索したい。

などの説明をしました。